

「かんぱーい」

「かんぱーい！」

「かんぱーい」



「くっ〜...くっ〜...」

「ああ、うまい！」

「だな」



「いやあ、それにしても…」

「3人で飲むの久々だな」

「な〜…」

「いつぶりだっけか？」



「この前ラミちゃん家で飲んで以来じゃね？」

「あゝそれくらいか？」

「あんまりそんな感じしねえなあ……」



「そう感じてんのはお前ら2人だけだよ」

「俺んことハブってさあ
2人で飲んでたんだもんなあ〜」



「お熱いからなあ、2人とも……へへ」

「いやいや、ハブってるとか……
そんなんじゃないっての」



「俺は寂しかったぜえ……?」

「全然誘われなかったからな」

「高1ん時からずっとお前らの親友
やつてきたつてのにさあ」



「俺は1人寂しく晩酌だぜ？
すんすん……」

「あゝはいはいごめんっでえゝ
そんな勘ねんなよお」



「そうそう、機嫌直してくれよ
つまみやるから」

「やるからってW
これ俺が買ってきたやつだろ?」

「あゝそうだったけ? W」

「へへ...」





「てかさ、最近どうなんよお2人さん
付き合い始めて何年経った?」

「どうもこうもねえよ!..
...あ、2年くらい?」

「2年半経ってるつての」

「もうそんな経った？マジかあ」

「おいおい……
付き合い始めた時期くらい覚えとけよ」

「わりい……」

「俺なら絶対覚えとくけどなあ」



「覚えてもらえてないなんて寂しいぜえ
アタシはあゝ…」

「いやあ、なんつーか…
一緒にいるのが自然すぎてさ…」

「ついつい付き合ってること忘れちゃう…っつていうか」



「ちっちゃい頃から一緒だからさあ……
うん、まあ……」

「彼氏彼女つつつても……
友達の延長線上みたいなんで……」



「おいおい、流石にそりや…
あんまりだろお」

「そおだぞお？
せつかくアタシが勇氣出して
告白してやつたつてのによお」



「あーごめんて!!」

「ちゃんと彼女として…
大切に思ってるっての!!」

「えーほんととかあ?
この前ん誕生日……
プレゼントやるの忘れてたって聞いたぞお?」



「え……」

「おい……」

「なんで、お前がそれ知ってたんだ……？」



「…ん、あゝ、あれだ…」

「ぼたんがこの前愚痴つてきて…
……さあ……な？」



「ん…まゝそうだけど…
…はい、この話はやめやめ！」





「これ以上話してたら
アタシ悲しくなっちゃうぞえ〜」

「彼氏様に大切に
思われてないんじゃないかってよお〜」

「いっ、いやいや!!ちゃんと愛してるって...!!」

「おっ、言うねえ!」

「茶化すなよ!」

「はははは!!」





（てか…最近気になつてたけど…）

（いつのまにアイツ
ぼたん呼びするようになったんだ……？）

数時間後……

「あーあ、寝ちまつた」

「こいついつつも酔い潰れるよなあ」

「ぼたんより酒よえーんだから、つたく」

「……なあ」

「……」



「……」



「……しねえ？」

「……」



「おいバーカ…バレるつての…♡」

「いやいや……
バレないようコッソリ…♡♡」

「え……？……いやでもぬぬ…」



「ぼたんも我慢出来ねえだろ？な？」

「だあから呼び捨てやめろつてえ」



「……♡」

アハハ



「…ほら、な？」

「我慢出来ねえだろ？ん？」



『3' 3&...』



「はーもう……」

外んコンビニのトイレの中でならいいーけど?」

「いやいや、それじゃスリルないでしょ
やっぱ………**寝室で、**な?」

「お前……頭おかしいだろw」





「1発したら終わりでいいからさ♡
な? いいだろ?」

「え〜……?……まあ……♡」



「……ん」

（やつべ、寝てたか……
あたまいて……）

「ちよ、水……水ちようだい……」

（あれ……2人ともいない……
しやあない、取り行くか……）

（え、と……ぼたんの家の……冷蔵庫の位置は……と）

「ん……？」

「なんか、変な音する……？」

（あれ……なんか、光が漏れて……？）



「!!」



(な…!?…なに、この…え…!?)

(ぼたんと…○○が……!?)

ずんずん

くわん

ゴゴゴゴ

じゅぽ

ぐんぐん

くん



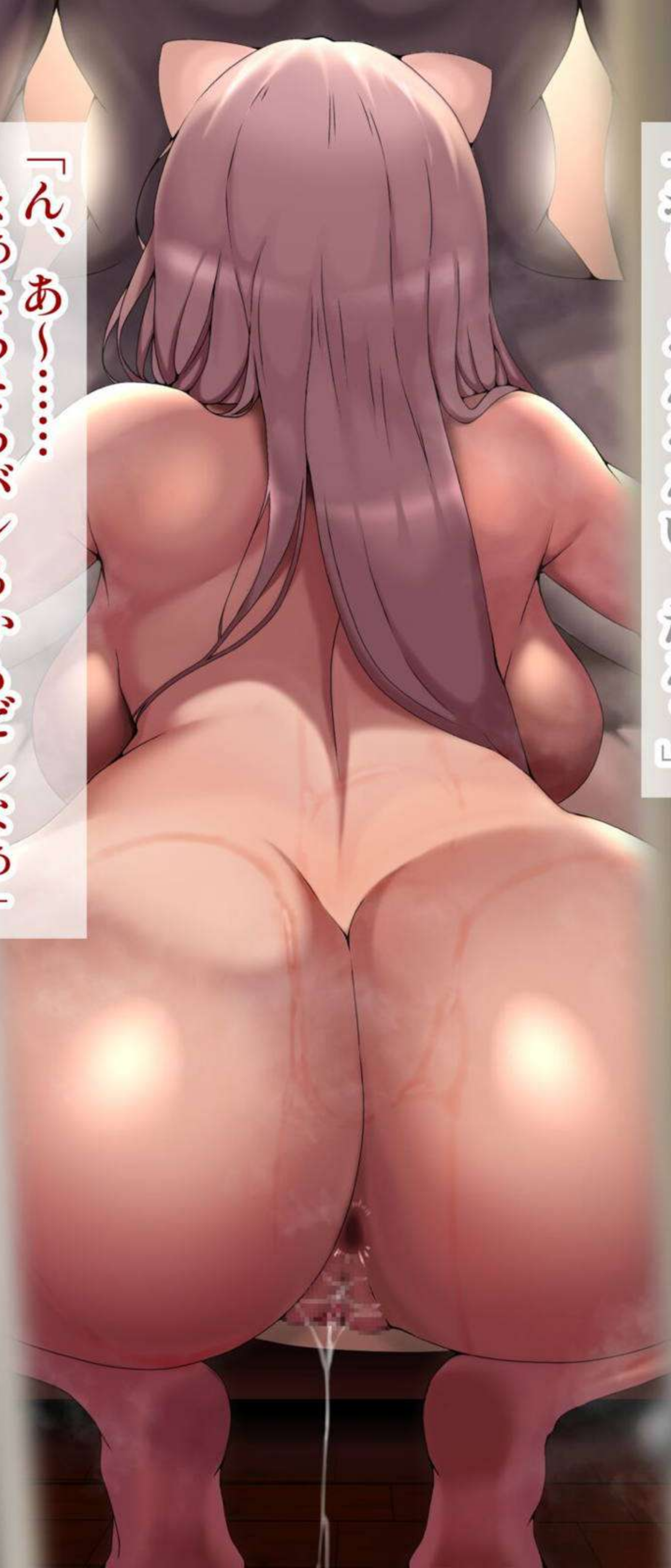
んぶ…♡はっ…♡

「おら、そろそろいいーだろ？」

「ん、あゝ……
まあそろそろバレるかもだしなあ」

「…じゃ最後にさ
掃除だけじゃ物足りないから1発抜いてよ♡」

『……♡♡』



(は…!?何…!?どういふこと…!?)

(抜く…!?バレる…!?
何が?何を!?俺に…!?)

(え…!?どういふ…!?)

(やばい…頭まわんねえ…!!)





ズンザン♡

うわん♡

ポロポロ♡

んん♡

しゅぽ♡

ごぽ♡



(え…?! いや…ぼたんと…
アイツが? 出来てて…?! 俺が…!?)

(いやいや、まさか…いやでもこの光景…!)

(俺が…ハブられてる…?)

(ぼたんは…アイツと…?)



(やばいやばいやばい…頭おかしくなる…)

(問い詰めなきや…なのに…)

(体動かねえし…!)

(は…吐きそう…!!…う…!!)



「やっぱ…ぼたんの下品フェラが
1番キクわ…♡」

「1年半かけて…♡
じっくり育てた甲斐あったぜ♡」

じゅわん♡

ぢゅわん♡



(い…1年半…?)

(それって…俺らが付き合い始めて…)

(えと…半年後?とか?)

(そんな時から2人は…嘘だろ…?)



「あゝそろそろ出るわ♡」

「バレたらめんどくせーし
全部飲めよ？」

んもっ♡

んぎゅ♡





「あー♡…ちゅちゅらー♡」

いー♡

いー♡

「アイツにはわりいけど…♡
この気持ちよさはたまんねえわ…♡」



「ふは…」

「あーよかったよかった♡最高だったぜ♡」

「ん…なんかちよつとにげーんだけど
ちゃんとした飯食えよな」

「おふくろみてーなこと言うなよW」



(よし、じゃそろそろ戻るか…
バレねーうちに、な…)

(…お…おわった…のか…?
覗かれてること、バレてない…?)

(…やば…そんなことより、頭いてえ…吐きそう…)



「うえ……っ」

「ん……」

「起きた……？」

「かもな、早く戻っぞ」

（や、やばい……！覗いてたのバレる……！
早く戻って『寝たふり』を……!!）

僕はなぜ

あの時声をかけて問い詰めなかったんだろう

……2人との関係を壊したくなかったから？

……なのかもしれないけど、それは……分からない

（その後2人は何食わぬ顔でリビングに戻ってきて寝たふりをしてる僕に優しげに声をかけた）

（コンビニに買い物に行っていた

とか言い訳をしていたが……

部屋には新しいレジ袋は一切見当たらなかった）

（俺が覗いていたことはバレてはいないのだろう
バレていたとして、こんな態度を取れるわけがない）

（…というより、あれは夢だったんじゃないか…と
僕はそう思い込んで2人と話をし始めた）

（口元に縮れた陰毛をつけた俺の彼女……と）

（首元に赤いキスマークを
つけた俺の親友……に向かつて…）